

(道徳)

# 豊かな心をはぐくむ道徳授業のあり方

～自ら考え、友達と伝え合いながら考えを深める授業づくりを目指して～

大阪市立玉造小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

昨年度より研究テーマを「豊かな心をはぐくむ道徳授業のあり方」として研究に取り組んできた。「①効果的な資料提示方法の工夫 ②自分の考えをもたせるための発問の工夫 ③自分の考えを基に書く、話し合うなどの表現活動の充実」を3本柱として研究を進めてきた。

昨年度までに取り組んできた道徳科の研究の成果としては、まず、教材を区切って読む「場面読み」やペープサート、揺れ動く心情を視覚的に表す「ハートメーター」など資料提示方法を工夫したことで、意欲・関心を持続し学習に取り組むことができた。登場人物の置かれている状況を確認できる補助発問を設定し、登場人物の葛藤をとらえやすくすることで、中心発問を深く考えることができた。話し合い活動では、学年に応じて、ペア、トリオ、グループなど様々な形態で行った。全体交流の前に行うことで、自分の考えを深め、活発な全体交流につなげることができた。一方で課題としては、動作化・役割演技などの表現活動を取り入れることで児童の考えを深めることはできたが、学級全体で共有できるような工夫が必要であること、児童が自分自身の思考の変容を板書やワークシートから振り返られるような工夫が必要なことなどがあげられていた。

## 2. 研究の趣旨

本年度も、互いの良さを認め合える好ましい集団を育成し、思いやりの心を育て、マナーの向上を図ることを目指して引き続き同じ研究主題で取り組むことにした。具体的には、「道徳的価値について多面的・多角的に考える工夫」「考えを伝え合い、議論するための交流の場の工夫」「論理的思考力を高める思考ツール活用の工夫」を取り入れながら、道徳的価値について自身の気づきや変容を自覚できるような授業づくりを目指して研究を進めていくこととした。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 道徳的価値について多面的・多角的に考える工夫

- ・様々な事象を一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させる。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。

視点② 考えを伝え合い、議論するための交流の場の工夫

- ・多様な価値の存在に気づき、多様な解決方法を知る。
- ・話し合いなどの表現活動の充実を図る。

視点③ 論理的思考力を高める思考ツール活用の工夫

- ・発問内容や道徳的な問題に合わせた思考ツールを取り入れる。
- ・思考ツールを活用して、自分の考えを整理する。

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 低学年では、範読する際に、挿絵の登場人物の表情に注目させることが効果的であった。そのことによって、教材を理解しやすく、人物の気持ちの変化をとらえることができた。
- さまざまな教材でマトリックスを活用した。縦軸や横軸に考えさせたい事柄を書き入れることで、登場人物の気持ちの変化を多面的にとらえることができた。
- 導入や終末で教材の内容と類似する場面を想起させたり、終末で登場人物に手紙を書いたりすることで、自分自身に重ね合わせ考え、道徳的価値への理解を深めることができた。また、日常の場面でも自然に続けていこうとする児童が増えた。
- 中心発問について考える際、教材や発達段階に応じてペアやグループ、全体で交流を行うことで、様々な考え方を知ることができた。全体交流では、立場に分かれて討論（議論）することでも、様々な考えを共有することができた。
- 低学年では、役割演技を取り入れることで、登場人物の心情をとらえやすくなった。ペアで演技をすることで、児童が主体的に取り組むことができた。全体で役割演技をするときは、他の児童の演技を見ることを通して、友達の考えを知ることができた。
- 登場人物の気持ちを考える際、児童に何を考えさせたいか、教材を読み込み、より効果的だと考えられる思考ツールを選んで取り入れることができた。異なる考え方の変容を整理・比較し考えさせたい場合はマトリックス、揺れ動く心情を考えさせたい場合はバタフライチャートを選択した。
- 信じる気持ちの度合いを綱引きチャートに表し、縦に並べることで、気持ちが変化していく過程を可視化することができた。
- 考えさせたい価値を中心に書いたイメージマップを活用し、考えを広げたり関係づけたり、関連づけたりすることができた。低学年では、色鉛筆を使って観点ごとに丸で囲い、関係づけることができた。中学年では、授業前に書いたイメージマップをもとに考え、授業後の気づきを書き足すことで、道徳的価値について考えの深まりを可視化することができた。
- 終末で、発問に合わせてクラゲチャートを活用し、自分の考えを整理しながらまとめることができた。チャートの形を工夫することで、視覚的にも考えやすくなった。
- ベン図を使って、左右の円の中にそれぞれの立場での登場人物の気持ちを書き、中心の重なる部分には、2つに共通するものを考えさせた。複雑な感情についても、図に表し可視化することで、理解しやすくなり、道徳的価値に迫ることができた。

### (2) 今後の課題

- ◎ 登場人物が置かれている状況を見童が正しく理解できるように、無駄のない補助発問等をさらに工夫する。
- ◎ ペアやグループでの交流では、意見を伝えて終わりになる児童もいるので、考えがより深まるような話し合い活動をさらに工夫する。
- ◎ 観衆側が演技者に質問したり感想を聞いたりするなど、ねらいとする道徳的価値に関わる話し合いが深まるような役割演技のあり方を、さらに工夫し、高学年でも取り入れる。
- ◎ 思考ツールをさらに自然な形で使えるようにできないか、その思考ツールがその教材・場面に適しているか、有効な手段となっているかなど精選して取り入れる。